

がまごおり「みらいキャンバス」は図書館・ホール・生涯学習センターの機能を核とした、市民の居場所・活動拠点となる場を形成する複合施設建設プロジェクト。
ただいま検討を進めている基本計画の進行状況をお届けします！



第1回 市民ワークショップ

2024年12月22日(日)に、第1回市民ワークショップを開催しました。中学生から80代まで、「みらいキャンバス」に興味を持つさまざまな市民の方33名が参加しました。

冒頭、市から本プロジェクトの概要について説明を行いました。ワークショップのヒントとなる施設事例紹介の後、6グループに分かれてグループワークを行いました。

「みらいキャンバス」によって実現したい未来の過ごし方について、たくさんの方のアイデアが話し合われ、最後には各グループが話し合いの成果を発表し、全体で共有しました。年齢も職業もさまざまな参加者なので、それぞれやりたいこともさまざま。似たアイデアを1つの活動グループにまとめてみたり、活動グループ同士のつながりを見つけて書き込んでみると、みんなが思い描くみらいキャンバスでの1日が見えてきました。

テーマ

この施設に1日いるとしたら、
何をして、どう過ごす？

みらいキャンバスの3つの役割

みらい
スペース

憩い・つながる場

自由な居場所であるとともに、
蒲郡の多様なヒト・モノ・コトが出会い、つながる

みらい
スタジオ

知の拠点

新たな知識・情報・経験に触れ
「知りたい」学び「やってみたい」活動を深め、高めていく

みらい
ステージ

発信・表現の舞台

学び、活動したことを発信や表現によって人に伝えて、
学びが循環し、一人ひとりがかがやく

ワークショップの目的

やりたいことを考える



活動の土台づくり・企画



ワークショップの意見



……➡ ☐ 市民の多様な活動の土台づくり

開館までの実証実験・活動

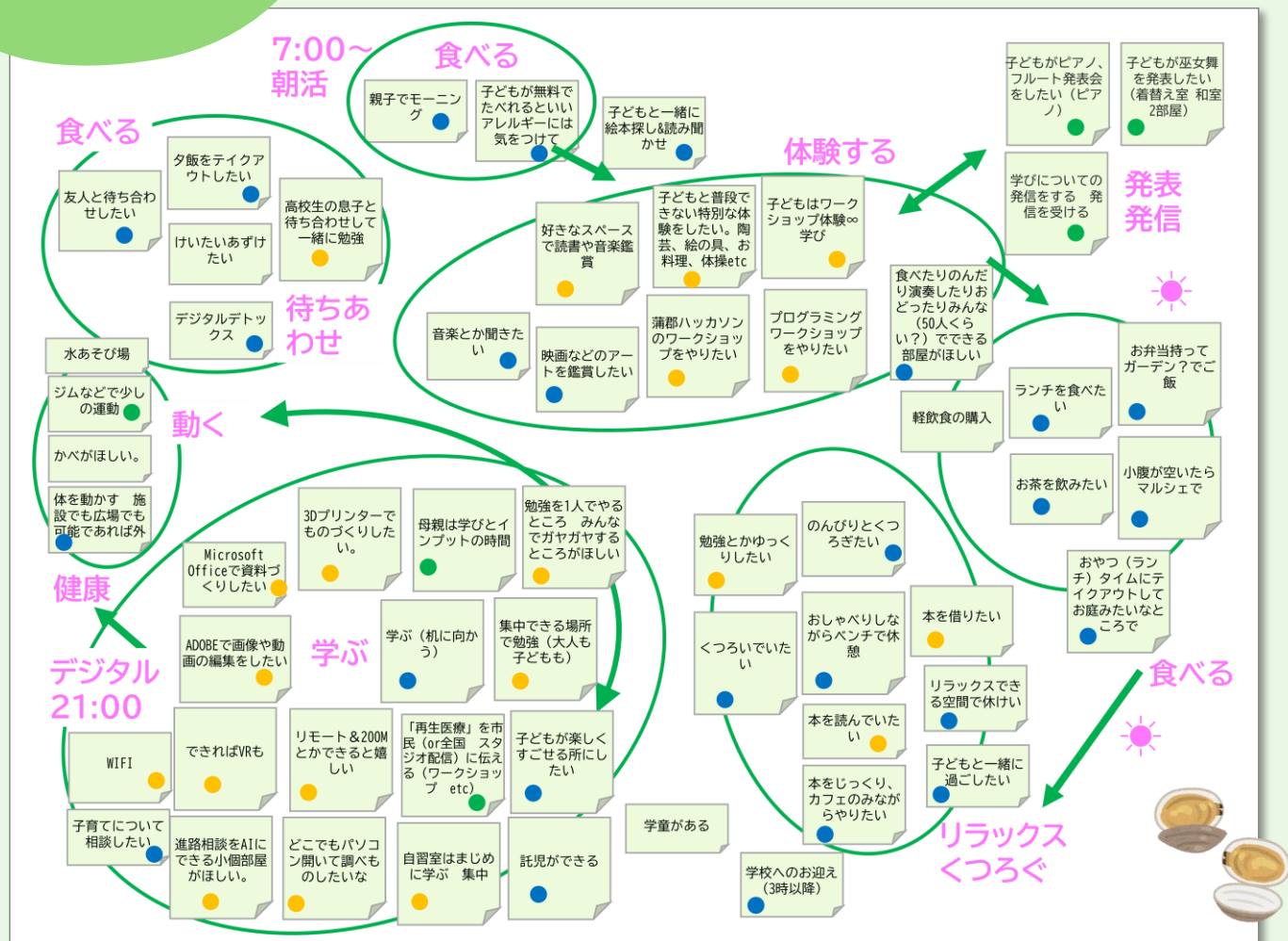
開館後の活動の継続

……➡ ☐ 基本計画への反映

サービスの内容検討

各機能のゾーニング検討

次のページからは、各グループで話し合った内容を整理して掲載しています！
整理している内容は、付箋を模造紙に貼りながら作成した「ワークシート」、「発表内容(概要)」、
運営企画チームによる後日分析を含めた「話し合いのポイント」、の3点です。



発表内容

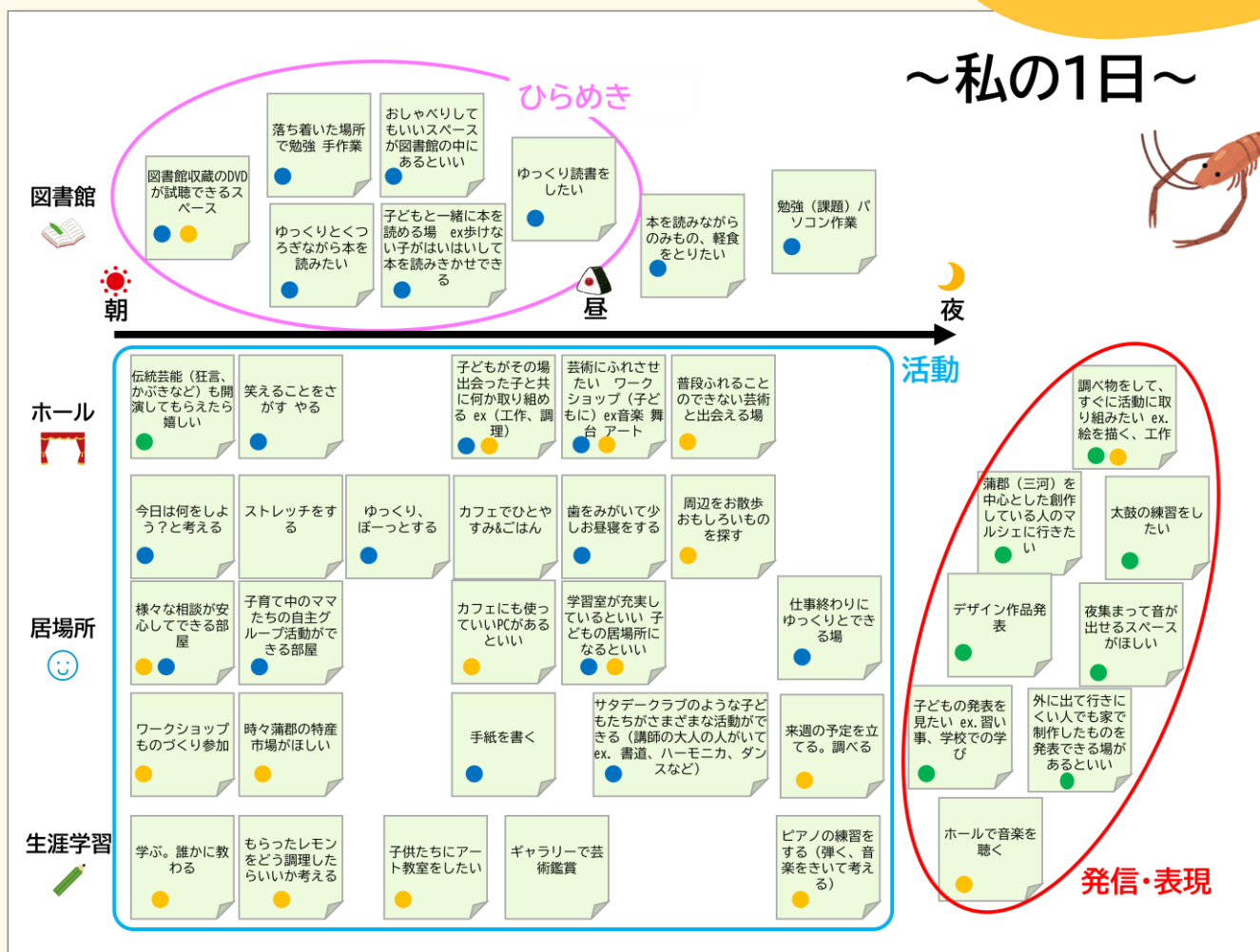
- ・ モーニングなど、朝の時間帯に過ごせると、市民の利用が多くなると思う
- ・ 学校が終わってからの15時～17時頃の時間帯で、こどもたちの受け皿となる場所になると良い
- ・ 子どもが動くことのできる大きな広場などがあると良い。そうすると自然とデジタルデトックスもできるのではなど

各付箋には以下3つのカテゴリのシールを貼りました！

- みらいスペース 憩い・つながる場
- みらいスタジオ 知の拠点
- みらいステージ 発信・表現の舞台

話し合いのポイント

- ・ 1日はモーニングからスタートするという、「この施設に1日いるとしたら、何をして、どう過ごす？」というお題に対して、それにバッチリの時間軸での過ごし方を表現していただきました。
- ・ その後もランチ→おやつ→夕飯と、ちゃんと食事を挟みながら過ごしているところが、他のチームとはまた違ったくつろぎ、リラックスした1日の様子を表しています。
- ・ その1日の中で多様な世代が、日中は身体を伴う活動や、発表・発信から始まり、日が暮れるにつれ、学習や、デジタルを活用した創作・体験など、活動内容も変わっていく様子が非常に多種多様な過ごし方のできる「みらいキャンパス」の方向性を示唆しています。



●みらいスペース ●みらいスタジオ ●みらいステージ

発表内容

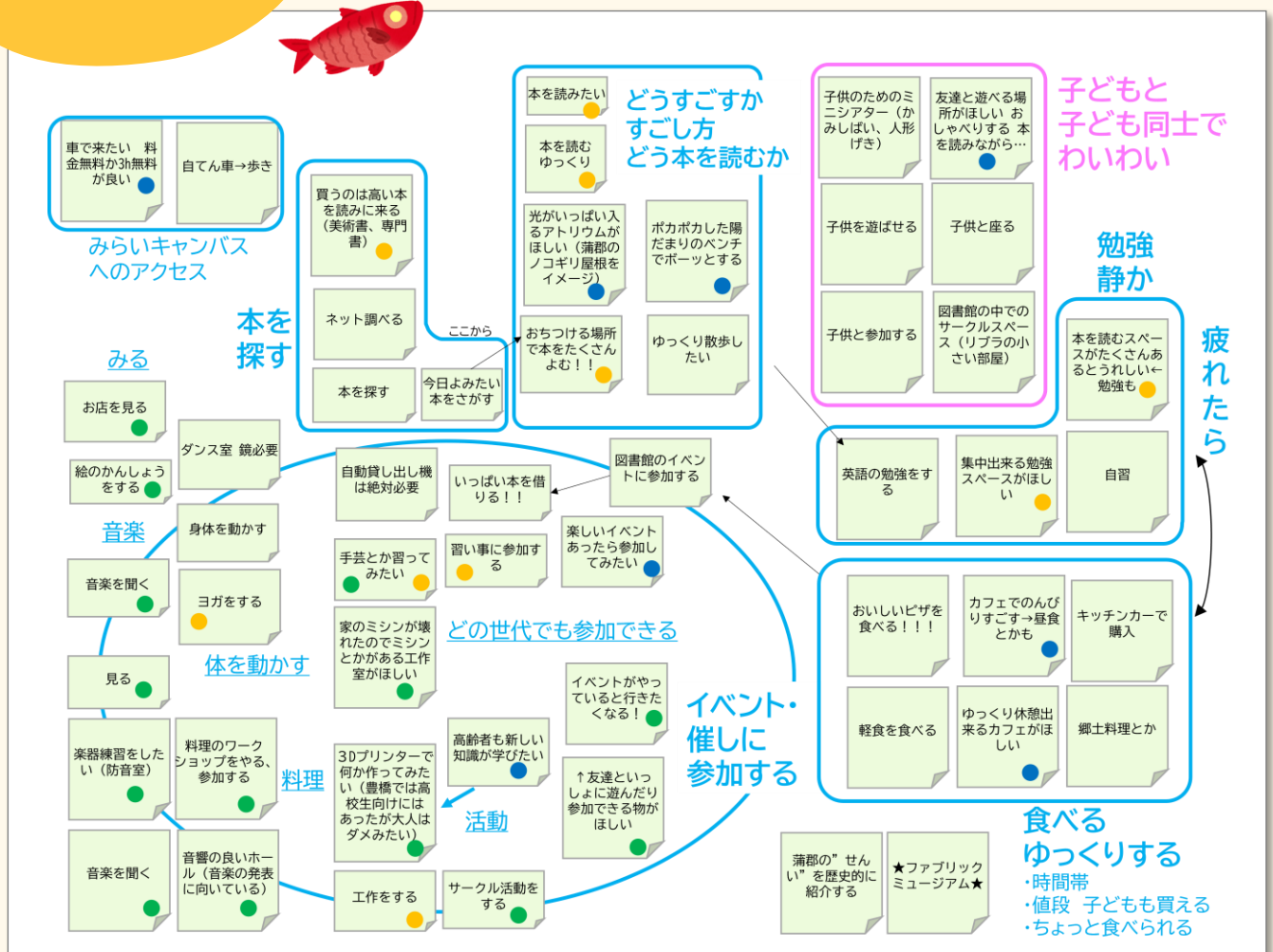
- 図書館は色々なものに出会える場所。その近くにホールや居場所があり、例えばアートに出会ったら絵をかいてみたくなるなど
- ひらめいて、すぐに活動ができる場、それを紹介していきたくになるような、ひらめき→活動→発表というつながりがある
- 子どもたちが様々な活動ができ、そういった活動をしていく中で、大人も子どもも色んな世代が発信・表現できていくと思う

など



話し合いのポイント

- 朝から夜への時間軸を、図書館、ホール、居場所、生涯学習という「みらいキャンパス」を構成する施設要素に分類していることが特徴的です。
- 主に図書館ではひらめきを得ながら→様々な活動→発表へと流れていくストーリーや拡がりのある構成になっていますが、その活動と活動の間には、ゆっくりと一人ひとりが「自分で過ごしたい過ごし方」をするような内容も多くみられます。
- 必ず活動をしなくても、例えば、「もらったレモンをどう調理したらいいか考える」というような、まるで日常生活の些細な一部を切り取ったような在り方も「みらいキャンパス」の要素として必要であることを示唆しています。



発表内容

- ・ みらいキャンパスに来る方法は車が良い
- ・ 本を探るところから始まり、静かに勉強、子ども同士でワイワイ 楽しく過ごすなど。そうして過ごすうちに疲れたらゆっくりできる場所があると良い
- ・ 来館した際にたまたまイベントをやっていて、気軽に参加できたり、体を動かしたり、音楽が聴ける場所だと良い
- ・ 世代を限定したりしないイベントで、高齢者も学び続けていける機会が欲しい

など

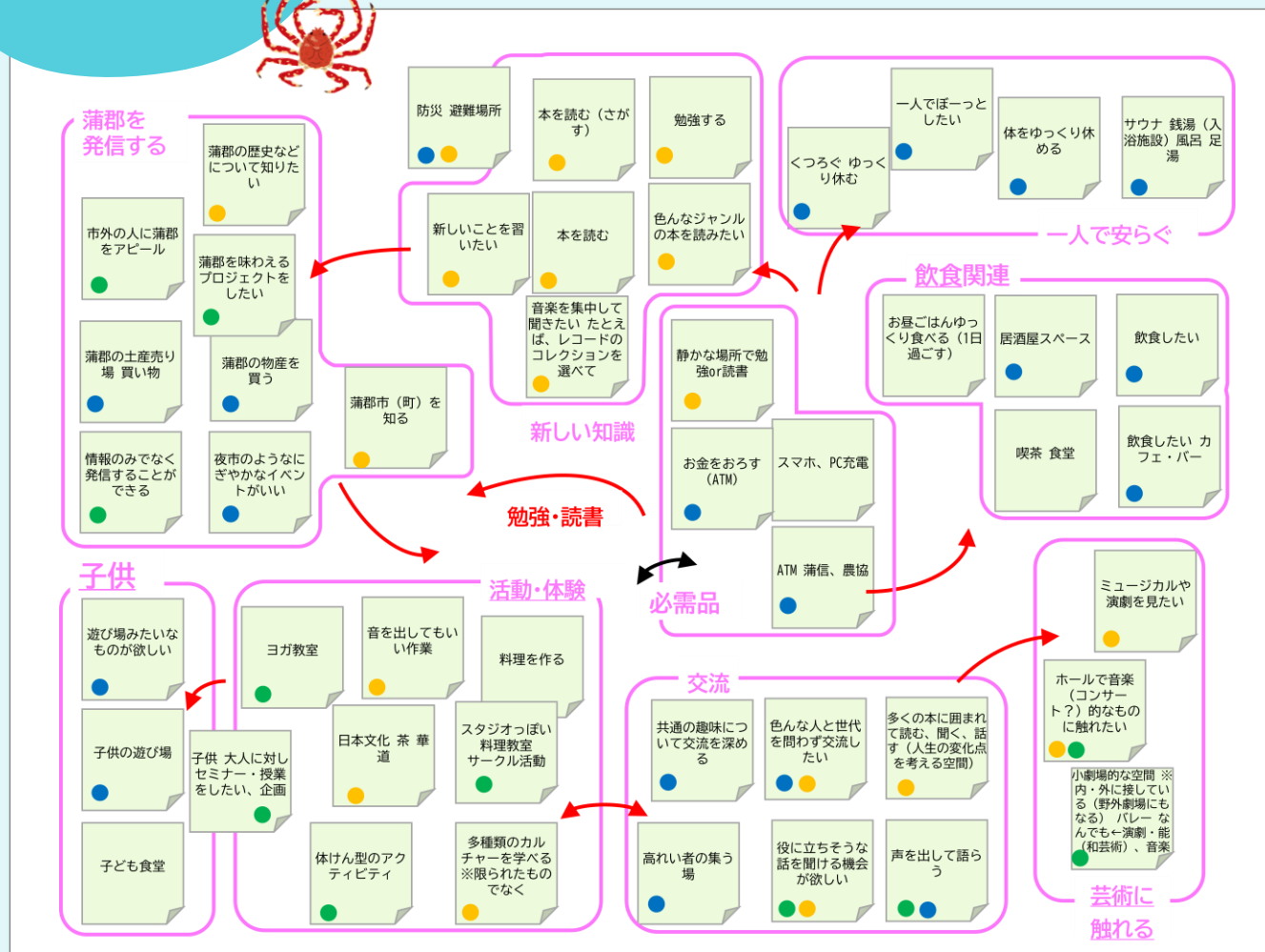
話し合いのポイント

- ・ 「みらいキャンパス」へどのようにアクセスし、本をどのように探し、目的の本を見つけ、それを「どう本を讀むか」ということをスタート地点とした、図書館機能を軸に置いたことが特徴的なワークシートになりました。
- ・ それに伴い、「自動貸出機絶対必要」や「本をいっぱい讀みたい」など図書館機能への希望も出てきている一方、子ども同士でわいわいしたりするような空間があったり、マシン、デジタル機器による創作、音楽活動など、様々な活動への広がりも見取れます。
- ・ また、蒲郡の“せんい”もテーマとするなど、地域文化の収集や発信も「みらいキャンパス」の重要な要素であることを示唆していることが特徴です。





- ・ 個人を高めていく(耕す)、人と何かをするの2方向ある。良い舞台美術が鑑賞できたり、映画が見れるなどの楽しさと、子どもを預けて大人が自分の時間を過ごせるなどできると良い
- ・ 人と人とのつながりは、マニアな集まりや若者とまちの未来について語れる場所があると良い
- ・ こどもに関する意見では、本を読む、子ども食堂を中学生がやるなど子どもにとって学びの深い場。その他、カフェ、キッチンカー、マルシェなど、憩う場所など



●みらいスペース ●みらいスタジオ ●みらいステージ

発表内容

- 必需品をきっかけに来館することで、勉強や読書、蒲郡の歴史を知ること、蒲郡の物産購入などにつながる
- 飲食関連の意見も出ており、〇週目〇曜日は夜市があるなど、夜遅くまで楽しめるイベントがあるという意見もあった
- 活動や体験型アクティビティなど、活動・体験することが世代を超えて交流したり、共通の趣味の人と出会って芸術に触れたいなどにもつながる

など

話し合いのポイント

- ATMやスマホ充電など、現代の生活に必要な必需機能を持たせることで、利便性を向上させるだけでなく、施設に必ず来なくなる要素を高めた内容と読み取れます。そしてその入口をきっかけにして、ここに来ることで、「新しい知識」や「発信」「活動・体験」「交流」「飲食」「芸術」「一人で安らぐ」など様々な要素に触れることが出来るという全体像が特徴的なワークシートになっています。
- 飲食関連には「居酒屋」などもあり、本当に朝から夜まで1日中過ごせたら良いなという希望も見えて取れます。
- 特に特徴的なのは「蒲郡を発信する」というテーマで、市民として蒲郡のことをもっと知りたいのと同時に、市外の人に対しても蒲郡をアピールするような、「みらいキャンパス」がそんな施設であることが望まれていることが分かります。



●みらいスペース ●みらいスタジオ ●みらいステージ

発表内容

- ・ 個人での過ごし方として、とにかくボーっとしたい、コーヒーを飲みながら本を読みたい、仕事をしたい
- ・ 飲食ができたり、お土産で蒲郡みかんが置いてあるなどが良い
- ・ 自分で調理した料理を食べたり、中学生を中心とした子ども食堂がある
- ・ 蒲郡についてもっと知ることができ、広がるものが良い

など

話し合いのポイント

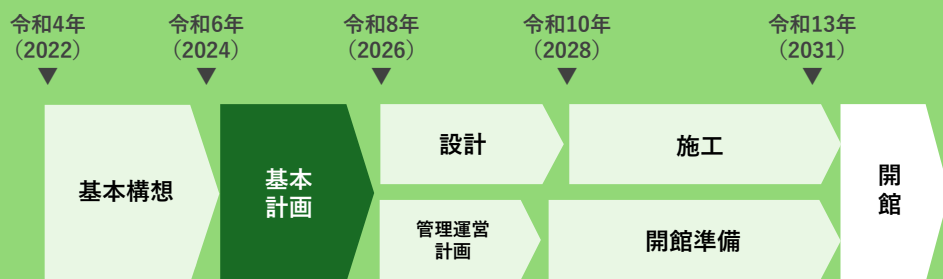
- ・ いかに子どもが過ごしやすく出来るか(不登校の子どもが気楽に来れる、子ども食堂機能等)や、防災のことにも触れるなど、社会的な課題に切り込む内容となりました。
- ・ 「I LOVE 蒲郡」というキーワードが示すように蒲郡愛にあふれたワークシートで、蒲郡市内の「名所」や「食」を発信し、もっと知ってもらおうというような意見が多く見られます。
- ・ また、世代や立場を超えた交流から生まれる新たな知識のアップデートについてのアイデアが多数出ている一方、個人で好きに過ごしたり(「ボーっとする」2件)と、「みらいキャンパス」を訪れる人々の過ごし方は多様であることを示唆した内容となっています。



結果の総括

- まず、図書館、ホール、生涯学習といった「みらいキャンパス」で予定されている機能を軸としながらも、どのチームもそこからはみ出したり、大きく拡張するようなアイデアが生まれていることが大変特徴的です。
- はみ出したり、拡張したりする活動を可能にするには、各機能が混ざり合う＝融合し、かつその融合した際に出来る中間領域＝「なんにでもなれる場、どこにでもつながれる場」の在り方が大変重要であると考えられます。
- このような活動を支えるためには、さまざまなニーズに応えられる可変性のあるスペースを持つことが有効だと考えます。また、アナログから最新のデジタルまで、創作や情報発信のために、様々な設備が気軽に使えることも大切です。
- 人との交流(参加する、教える、教えられる)も大きなテーマである一方、一人で過ごしたいという意見も全チームに見られ、多様な過ごし方が実現できる施設であることが望まれています。
- 同時に、子どもの過ごし方についての意見も多く、みらいの蒲郡を支える子どもたちがいかに「みらいキャンパス」を使ってくれるかということもテーマであると考えられます。
- 最後に、蒲郡の文化を大事にし、発信していくという意見も随所に見られました。まさに、この施設がみんなの「みらい」を描く「キャンパス」です。これまでの蒲郡を大事にしながら、これからの蒲郡をつくっていきましょう！

開館までのスケジュールイメージ



令和13年度の開館に向けて、事業が進行中です。

〔発行〕蒲郡市教育委員会教育政策課
TEL : 0533-66-1219
e-mail : kyoiku@city.gamagori.lg.jp